

新たな国立公文書館基本計画原案（概要）

資料1

① 現在の国立公文書館の施設

北の丸本館



昭和46年竣工
建物：地上4階地下2階（4層）
敷地面積：4,000㎡
建物面積：12,000㎡

つくば分館



平成10年竣工
建物：地上3階
敷地面積：25,000㎡
建物面積：11,000㎡

★問題点★

- ・施設・機能等において諸外国に見劣り
- ・書庫がひっ迫

→世界に誇る総合的な国立公文書館の施設の国会周辺の国民が利用しやすい場所への建設を目指す

② 本年4月の衆・議運小委員会における報告内容

国立公文書館に求められる様々な機能を一体的に果たす施設として整備。

（＝展示・学習、調査研究支援、保存・修復、デジタルアーカイブ、交流、人材育成、収集・情報提供）
「新たな国立公文書館の施設等に関する調査検討報告書」（平成29年3月）における想定
※期待される新館の建物面積規模＝42,000㎡～50,000㎡ ←

建設工事費、必要工期

憲政記念館等を含む総建物面積：約59,000㎡～68,000㎡
建物工事費：約790億円～850億円（見込み）（什器等諸費用除く）
必要工期：約9年半

高木毅 衆・議運小委員長（当時）から政府への御指示（29年4月）

既存施設である現北の丸本館及びつくば分館と役割分担を図る具体的・現実的な新たな施設建設の基本計画の検討を進め、**遅くとも本年中には原案を本小委員会に報告**の上、平成29年度中を目途に基本計画を策定することを求める

③ 新館建設後の国立公文書館（3館）の姿

新館

場所：国会前庭（憲政記念館敷地）

建物：地上3階地下4階

建物面積：約30,000㎡

（うち、書庫部分約8,000㎡）

総建物面積：約42,000㎡

←憲政記念館・駐車場を含む面積

建設工事費、必要工期

建物工事費：約480億円

（什器等諸費用除く）

必要工期：約8年半

※ 現時点の試算であり、今後の物価変動、詳細検討により変動する可能性がある。

3館の機能分担

新館

多くの国民が利用する展示・閲覧を中心とした総合的施設

北の丸

行政官向け研修等を実施する学習拠点と研究者向け書庫

つくば

受入れ機能を集約するなど保存機能（書庫）に特化

北の丸本館

場所：北の丸公園
建物面積：12,000㎡
（うち、書庫部分5,000㎡＊）

つくば分館

場所：つくば市
建物面積：11,000㎡
（うち、書庫部分8,000㎡＊）

＊ 集密書庫換算の面積

④ 今後の検討

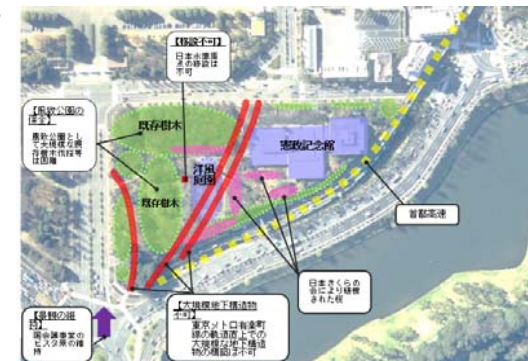
基本計画の策定
（29年度中目途）

設計、建設（30年度～）

※ 具体的なスケジュールについては、基本計画の策定段階で検討

※ 新たな国立公文書館の整備に当たっては、国の三権が集中するエリアであることを踏まえ、周辺の景観との調和に十分配慮するとともに、国のかたちや国家の記憶を伝える場にふさわしい施設を目指す。

※ 現憲政記念館については全て取り壊すが、現在の建物が歴史と伝統を有したものであることを踏まえ、一部部材の活用やイメージの踏襲等を今後検討する。



敷地の現状